

<第5回高速鉄道ネットワークのあり方検討委員会>

～第4回検討委員会の議事概要等～



NIIGATA
PREFECTURE

新潟県交通政策局

第4回検討委員会の議事概要（冒頭のみ公開）

■日時：令和5年9月27日（金）15時00分～16時30分

■会場：新潟県自治会館別館 9階 コンベンションホールゆきつばき

■出席者：委員13名／14名

※野上委員は欠席

■内容：以下のとおり

1 議事項目（資料に基づき、事務局（新潟県交通政策局交通政策課）から説明）

（1）第3回検討委員会の議事概要等

- ・ 令和4年度調査結果の振り返り（（案1）（現：案1-1）信越本線「ミニ新幹線化」、（案2）信越本線「既存線改良による高速化」）
- ・ 他の高速化手法の検討（（案3）北越急行ミニ新幹線化・長岡⇄柏崎シャトル化、（案4）（現：案1-2）トキ鉄ひすいラインミニ新幹線化の概略ルートを提示）
- ・ 今後の調査方針等について（今後調査・検討する事項、今後のスケジュール）

（2）課題への対応

- ・ 各案の課題を分野別（施設計画、運行計画等）に整理し、三線軌区間のメンテナンス性、運休期間の短縮、風雪など悪天候の影響等について説明。

（3）高速化手法の概略

- ・ 第3回検討委員会において今後検討することで了承された（案1-2）、（案3）の具体的な整備手法について説明。

（4）今後の調査方針等

- ・ 令和5年度、令和6年度の検討委員会における検討事項のほか、令和5年度における調査・検討のスケジュールについて説明。

第4回検討委員会の議事概要（委員からの主な意見要旨）

- （（案1-1）の3線軌化に伴うトキ鉄の）3～4年の運休期間を分解していかに影響を少なくできるのか検討が必要。
- （風雪の影響など）どの部分が弱点で運休しやすいのか詰めていく必要がある。
- 日本海ひすいラインや信越本線は、運休により通勤・通学、貨物輸送に影響が生じる。
- 速達性のある車両の運行や本数を増加させることによって利便性の向上が図られることから、高速化と速達性の確保の観点からも議論をしたい。
- 長大トンネル（トキ鉄の能生駅と名立駅の間）は、トンネル内の壁面や設備で様々なメンテナンスコスト増加のリスクが存在する。
- どの線を整備するかによってメリットを受ける地域は変わってくるので、課題だけでなく、得られるメリットも併記した方が検討しやすい。
- 課題については、技術的などころも含めて（情報の粒度を）合わせて見せた方がいい。議論を県民に促すのであれば、検討できる材料を提示することが大事。
- 需要予測については、新潟県の人口減少は特に若年層が著しいので、冷静な需要予測をしていただきたい。
- 地域鉄道あるいは幹線も含めて、（高速鉄道と）両立できる制度のヒントが既に存在しているので意識してもいい。